

生活援助技術論

単位数（時間数）：2 単位（60 時間） 必修/選択：必修 履修年次：1 年次 開講時期：後期

科目責任者（職位・氏名）：教授・永井 睦子

科目担当者（職位・氏名）：教授：土田 幸子、助教・野中みつ子、助教・武田恵梨子、
助教・山田 英子

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢
看護の基礎的・専門的知識・技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽
科目記号：46

■ 授業概要

対象となる人の安全・安楽・自立・自律を保証しながら、対象者の日常生活を支援するための看護技術の意義と、援助技術の基本を教授する。そして、日常生活行動への支援を必要とする健康障害を持つ人を身体的・心理的・社会的 3 側面から統合して理解し、対象者に対して適切な看護実践の過程について体験を通して修得できるよう教授する。さらに、常に対象者の想いに寄り添いその人らしさを考慮した看護を実践しようとするケア・スピリット（倫理的な姿勢）の基盤となる姿勢が修得できるよう教授する。

■ 到達目標

1. 看護職が対象者の日常生活を支援することの意義を説明できる。
2. 日常生活における生活行動への援助の意義を説明できる。
3. 対象者に対し日常生活を支援するための日常生活行動の援助技術を、安全・安楽・自立・自律を考慮して実施できる。
4. 演習での体験（実践者・患者・観察者）を通して、対象者の日常生活を支援する上で必要な判断力と倫理的配慮が実施できる。
7. 立案した援助計画にもとづいて援助を実施し、評価できる。
8. 主体的に学習課題および演習に取り組むことができる。
9. 他者と協力しながら、学習課題や演習に取り組む積極的に意見交換ができる。

■ 教育内容

基礎看護学

■ キーワード

安全・安楽・自立・自律、倫理的配慮、日常生活行動、援助技術

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

| 回 | 授業項目 | 授業内容・授業方法 | 担当 |
|----|----------------------|--|----|
| 1 | オリエンテーション 日常生活と看護 | 【講義】 生活援助技術とは | 永井 |
| 2 | 自己の日常生活のアセスメント | 【演習】 自己の安全で安楽な日常生活のアセスメント (グループワーク、全体討議) | 永井 |
| 3 | 活動・休息を支援する援助技術① | 【講義】 活動・休息の意義と生理学的メカニズム ・移動・移送の援助 | 野中 |
| 4 | 活動・休息を支援する援助技術② | 【演習】2グループに分かれて実施する ・移動・移送（車椅子、ストレッチャー） | 共同 |
| 5 | | | |
| 6 | 身体の清潔の援助技術 ① | 【講義】 清潔の意義と必要性 皮膚・粘膜の生理的メカニズム 衣生活・清潔のニーズのアセスメント 清潔の援助方法の選択 | 武田 |
| 7 | 身体の清潔の援助技術 ② | 【演習】2グループに分かれて実施する。 手浴、足浴、衣生活 | 共同 |
| 8 | | | |
| 9 | 身体の清潔の援助技術 ③ | 【演習】2グループに分かれて実施する。 全身清拭、洗髪 | 共同 |
| 10 | | | |
| 11 | <実技テスト①> | 【演習】2グループに分かれて実施する。 身体の清潔 | 共同 |
| 12 | | | |
| 13 | 安楽を確保する援助技術① | 【講義】 体温調節のしくみ 褥法による体温の変化と管理 冷却と保温の意義、リラクセーション | 武田 |
| 14 | 安楽を確保する援助技術② | 【演習】2グループに分かれて実施する。 温褥法、冷褥法 | 共同 |
| 15 | | | |

| | | | |
|----|---------------------------|--|----|
| 16 | 食事・栄養の援助技術① | <p>【講義】</p> <p>食事・栄養の意義、食事に関する生理的メカニズム、栄養状態のアセスメント</p> <p>病院における食事、援助方法の実際</p> | 武田 |
| 17 | 食事・栄養の援助技術② | <p>【演習】2グループに分かれて実施する。</p> <p>経口摂取の援助（自力で摂取できる場合）、口腔ケア</p> | 共同 |
| 18 | | | |
| 19 | 排泄の援助技術① | <p>【講義】</p> <p>排尿・排便の意義、解剖生理学的メカニズム、排尿・排便障害の種類、援助方法の選択</p> <p>排泄のニーズのアセスメント</p> | 山田 |
| 20 | 排泄の援助技術② | <p>【演習】2グループに分かれて実施する。</p> <p>床上の援助、おむつ交換、</p> <p>ポータブルトイレ介助、陰部洗浄</p> | 共同 |
| 21 | | | |
| 22 | 総合演習① | <p>【講義】演習の導入</p> <p>紙上事例の援助計画の立案の説明</p> <p>【演習】個人ワーク</p> <p>①事例の状況を把握するために必要な情報とは何か。そのためどのようなことを実施するのか</p> <p>②事例に対し、実施するための援助計画を立案する。</p> | 土田 |
| 23 | 対象の状態の把握 援助計画の立案 | | 共同 |
| 24 | 総合演習② 援助計画の修正 | <p>【演習】グループワーク</p> <p>各自が立案した援助計画について以下の項目について意見交換する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要とされる援助の根拠、期待される成果と対象の個別性が考慮されているか（援助内容とその必要性、観察項目など） ・実施上で留意すること | 共同 |
| 25 | 総合演習③ | <p>【演習】2グループに分かれて実施する。</p> <p>立案した援助技術をもとに実施する。</p> <p>実施した結果を記録し、実施した結果をもとに期待される成果は達成されたか、修正点は何か明らかにする。</p> | 共同 |
| 26 | 立案した援助計画に基づいた援助の実施 | | |
| 27 | <実技テスト> | <p>【演習】個別の技術チェック</p> <p>実施項目：対象の身体の状態を的確に把握し、対象の個別性を考慮した援助技術を実施する</p> | 共同 |
| 28 | 紙上事例（就床患者）への生活を保つための援助技術① | | |

| | | | |
|----|----------------------------|--|----|
| 29 | <実技テスト> 紙上事例（就床患者）への生活を | 【演習】個別の技術チェック 実施項目：対象の身体の状態を的確に把握し、対象の個別性を考慮した援助技術を実施する | 共同 |
| 30 | 保つやめの援助技術② | *実施要項は別途掲示する *既習の援助技術を統合する | |

■ 履修条件

特になし

■ 成績評価方法

期末試験 50%、各単元の課題 20%、実技試験 30% (3 回) の結果を総合して評価する。
ただし、課題の提出状況が悪い場合は面談を行い、期末試験の受験について検討する。

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・事前学習ワークシート、課題レポートのフィードバックは、コメントを付して行うとともに、質問欄に記載のあった内容については解説をする。
- ・実技試験は、試験終了時に担当教員から個別にフィードバックを行う。
- ・期末試験は、希望者に対してフィードバックを行う。希望者は、結果発表日以降 2 週間以内に、科目責任者へメールにてアポイントをとること。

■ 教科書

- ・『デジタル ナーシング・グラフィカ』メディカ出版
基礎看護学 ③ 基礎看護技術 I・II

*授業資料およびワークシート、演習要項等はファイリングし、授業時には持参すること。

■ 参考書・参考資料等

- ・竹尾恵子監修 (2019) 『看護技術プラクティス 第4版』学研メディカル秀潤社
- ・境章著 (2016) 『目でみるからだのメカニズム』医学書院

配布資料：授業前にワークシートを配布する。演習時には、演習要項を配布する。

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・講義授業は 1 時限につき、事前・事後学修時間として 90 分、演習授業は 1 項目の授業につき、事前・事後学修時間として 90 分程度を必要とする。
- ・事前学修：ワークシート、自己練習、指定された事前学習
- ・事後学修：自己評価、復習、自己練習

■ 担当教員からのメッセージ

授業前に詳細な日程及びグループを記載したプリントを配布し説明します。

この授業では、全ての看護技術に共通して基本となる知識・技術と看護者としての姿勢を学習します。皆さんがこれから看護学を学んでいく上で、基盤となる大切な部分です。積極的に学修や演習に臨み、確実な態度や技術を身につけてください。自主練習期間は、何度でも指導にあたりますので、申し出てください。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

研究室 17、nagai★iwate-uhms.ac.jp、特に定めませんが、事前に連絡して訪問してください。

(※メールの際は★を@にしてください)

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の実務経験

看護師

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

■ 実務経験を活かした教育内容

看護師業務や卒後教育への経験等を生かし、基礎看護学に関する専門的で実践的な講義および演習を行っています。